

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性				
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2			
19UHSA1006	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。	○	○			○	○	◎			○			
19UHSA1007	基礎英語 I	1	1. リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを総合的に学習しながら、実践的な英語力を獲得する。 2. 語学留学や海外旅行する際のコミュニケーションに役立つ力を養う。	学生がコミュニケーションに関する基本的な英語力を向上させる。	○	○				◎	○				○		
19UHSA1008	基礎英語 II	1	1. リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングを総合的に学習しながら、実践的な英語力を獲得する。 2. 語学留学や海外旅行する際のコミュニケーションに役立つ力を養う。	前期に開講した「基礎英語 I」で身につけた、基礎的な英語力を応用し、さまざまな状況で、英語によるコミュニケーションができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○		
19UHSA2009	Oral Communication I	2	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	英語の基礎文法などを復習しながら、インタラクティブな授業を通して基本的な会話ができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○		
19UHSA2010	Oral Communication II	2	「英文法はある程度わかっている、いざとなると英語が話せない」という人は多い。本授業では、英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	前期に開講した「Oral Communication I」で学習した内容を踏まえ、英語の基礎文法や語彙などを復習しながら、様々な場面での基本的な会話ができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○				○		
19UHSA2011	健康科学 I	2	高齢化社会を迎え健康への志向が高まっている現在、健康の保持増進に貢献できる質の高いスペシャリストを育成することを目的とする。	本科目は健康への幅広い知識の修得を目指す「健康科学連携教育科目」であり、健康に関する基礎的な知識を修得することを目標とする。	◎	○				○	○					○	
19UHSB2012	スポーツ心理学 I	2	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント（メンタルトレーニング、プレッシャー、あがり、スランプの対処法）、指導者のメンタルマネジメント等の心理面における基礎理論を理解する。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	獲得した知識・技能・指導法を総合的に活用しながら、将来のスポーツ指導にそれらを適用し、実践現場における問題解決能力を身につけること、また、心理的スキル向上を図るためには、必須である「動機づけの方法」「性格特性や個人差などに応じた指導法」「メンタルマネジメント」を理解し、スポーツ現場で応用できる資質を養うことを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○				○	○	○				○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
19UHSB3013	スポーツ栄養学	3	アスリートとして体力の維持・競技成績の向上のために、さらに将来の健康づくりの指導者として生活習慣病の予防・改善を指導するために、スポーツに特化した専門的栄養学を習得する。	栄養・食事に関する基本的な知識を身につけ、さらに、選手において特別に注意すべき栄養学上のポイントについて理解する。	◎	○				○	○	○			○
19UHSB1014	運動生理学 I	1	先進国社会では自動化、省力化、電気化による身体活動量の低下が、人間の健康に大きな影響をおよぼし社会問題となっている。そこで本講では運動やスポーツのもたらす身体活動が身体諸機能にどのような生理的变化をもたらすか学習する。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。また、スポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての専門的知識および技能等を修得することを目的とする。	運動生理学の基礎的な理論を理解し身体活動やトレーニングによる身体諸機能の変化について学ぶ。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。保健体育教授者、あるいはスポーツ指導者として、健康の維持・増進を目的としたインストラクターとしての指導実践において、対象者の個々の体力の違い、年齢別、性差等の諸問題を主体的に考え、取り組むことができる専門的知識を修得することを目標とする。	◎	○				○	○	○		○	
19UHSB1015	スポーツ医学	1	内科的分野では、運動開始前および運動中の自覚症状、他覚徴候から運動中止を判定する方法に関し理解する。スポーツと内科的障害、疾患を理解する。特殊環境下の運動、熱中症、高山病、低体温症、凍傷、潜水による障害、日光障害など実習に役立つことを学ぶ。学校、各種スポーツ活動時、教育者、指導者として必要なスポーツ医学の知識を体得することを目的とする。 外科的分野では、健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身につける。	内科的分野では、運動中に起こりやすい、呼吸・循環器、熱中症、さらに生活習慣病などを理解し、子どもから大人まで運動指導が可能になる。スキー実習（低体温症など）、キャンプ実習（高山病など）、マリンスポーツ実習（潜水病など）で事故の発生を予防する。また貧血、オーバートレーニングを理解し選手、指導者として活躍できるようになる。外科的分野では、スポーツ外傷、障害を理解し医師を含めてパラメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもってコミュニケーションができることを目標とする。	◎	○				○	○	○		○	
19UHSB2016	スポーツ運動学	2	スポーツ指導現場で必要な運動の見方・考え方を学ばせることにより、運動に関する理解を深めさせ、スキルの獲得とその獲得過程に関する質的評価ができるようにする。また、練習計画の立案ができるようにさせる。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スポーツを観察する方法を理解し、指導時に活用できるようになる。また、運動の質に関する理解が深まり、その良否に関しても適切な判断ができるようになる。運動が上手になる過程について理解し、適切な指導ができるようになる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○				○	○	○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性				
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2						
19UHBSB1017	体育原理	1	本科目の目的は「体育・スポーツとは何か」「なぜ体育・スポーツなのか」「体育・スポーツで何ができるのか」を考えることにある。「体育」について、同義語のように混同してとらえられる傾向にある「スポーツ」との相違点を明確にし、その意味と価値を学ぶことにより、「体育」と「スポーツ」の現代社会における存在理由および意義について哲学的に探求する。加えて、「体育」「スポーツ」をとりまく現代的な問題を取り上げ、根本的な問いの設定と哲学・倫理学的方法により、それらの問題について読み解いてゆく。あわせて、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	「体育」と「スポーツ」についての課題を発見し、多面的な思考のアプローチによって自らの考えを導き、それを論理立てて説明できるようになることを目指す。具体的には次のようなスキル獲得を目標とする。 保健体育科教員、スポーツコーチとして求められる基礎的な知識や考え方の習得 社会の変化に対応できる柔軟な発想、行動のとれる能力の獲得 自己の考えや判断を要領よくまとめ、それを言語化して説明できるスキルの養成 「学ぶ習慣」と「社会の出来事に関心を持つ姿勢」の涵養 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○				○	◎	○		○	
19UHBSB1018	運動器の解剖と機能Ⅰ	1	体を構成する運動器の機能と役割を知ることにより、スポーツパフォーマンスの向上や、健康の保持増進に役立つ知識を得ることを目的とする。	体の構造に関する基本名称を学ぶことで、コーチ、トレーナーおよび医師が共通の言語でコミュニケーションをとることのできる環境構築を目標とする。	◎	○				○	○			○	
19UHBSB1019	運動器の解剖と機能Ⅱ	1	健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考えていく上で、まず第一にその対象であるヒトの「構造が正常である。」「機能が正常である。」とはどういうことかを知る。	医師、コーチ、指導者、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話ができることを目標とする。	◎	○				○	○			○	
19UHBSB1020	スポーツ傷害の基礎知識Ⅰ	1	健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野の基礎知識を身につける。	体の組織学的、分子学的基本構造を学ぶことで、コーチ、トレーナーおよび医師が共通の言語でコミュニケーションをとることのできる環境構築を目標とする。	◎	○				○	○			○	
19UHBSB2022	スポーツトレーニングの科学Ⅰ	2	トレーニング科学の基礎理解として、人間の身体の適応能力についての基礎知識を養うとともに、目的とする身体機能を高めるための具体的な方法を学び、科学的な身体トレーニングについての知識を深める。一つは、スポーツパフォーマンスを高めるための科学研究成果と高度な実戦経験に基づく種々のトレーニング理論を理解することを通し、各種トレーニングや競技特性に関する理解を深めることである。一方で、健康・体力づくりのための適切な運動プログラムを構成する知識を深めることと共に、身体運動を生活に取り入れる能力を養い、健康を保持・増進していくための適切なトレーニング方法を身につける。これらの各種トレーニングに対する考え方や方法を学び、基本的なトレーニング計画の立案ができることを目指す。	トレーニングによる人間の身体の適応能力についての理解を深める。特に、競技者としての活動に役立たせることができるまで、また、健康・体力の維持増進に役立たせることができるまでの理解を深めることを目指す。さらに、指導者の立場でトレーニングの現場での合理的かつ総合的なトレーニング計画の立案、トレーニングの実際を分析・評価する能力を身につけ、課題を見出し、多種多様な課題に対しての創意工夫を試みることができるための資質の向上を目指す。	◎	○				○	○	○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
19UHSB1023	アスレティックトレーニング論	1	スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーは何を担っているのか？その役割や資格、関連職および問題点について学ぶ。トレーナーを目指す学生は、より具体的なイメージをもって今後の学習活動に取り組むきっかけとする。競技活動をしている学生は、トレーナーとどのような関係を築くことが自身の活動に有益なのか、考えることができるようにする。さらに、トレーナーと連携する職種を志している学生は、共通の言語を持って協働することの大切さを理解することを目的とする。	アスレティックトレーナーの任務、役割、具体的な業務について学び、実践する際に応用できる。コーチ、スポーツドクターの役割とアスレティックトレーナーとの連携について理解し、様々な状況においてとるべき行動について正しく判断できるようになる。アスリートに対してよりよいサポートを行うための知識を身につけ、実践できるようになる。進路について考えることができる。	◎	○				○	○	○		○	○
19UHSB1024	コンディショニング論	1	スポーツ選手が自身の能力を発揮するためのコンディショニングの把握とその管理について理解する。国内・外の遠征での注意点に関して学ぶ。トップアスリートにみられる病的現象について理解し、スポーツ選手のコンディショニングづくりの知識・情報を身につけることを目的とする。	スポーツ医学においてコンディショニングの考え方、評価法、実用的方法、国内（海外も）遠征などに関する知識を得て関係する情報も自ら得られるようになる。スポーツによる内科的障害（オーバートレーニング症候群を含む）とその対策を学び選手自身やコーチの立場で考えられるようになる。スポーツ関係者として知っておくべきドーピングコントロールに関しても学ぶ。スポーツ選手が自身の能力を発揮するためのコンディショニングの把握とその管理について理解して役立てる。国内・外の遠征での注意点に関して学ぶ。トップアスリートにみられる病的現象について理解し、スポーツ選手のコンディショニングづくりの知識・情報を身につける。	◎	○	○		○	○	○			○	
19UHSB1025	救急処置演習	1	日常生活に比べてスポーツ活動時に傷病発生リスクは高くなる。緊急時に必要な救助や処置ができるように救急処置の知識と技術を身につける。本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	救急処置、応急処置に必要な知識の習得をする。レポートにて知識の整理を行う。実習にて心肺蘇生法、止血、固定等を行う。実習試験にて知識の習得の確認を行う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○				○
19UHSB2026	バイオメカニクス	2	バイオメカニクス（生体力学）の学修によって、身体運動の運動成果（パフォーマンス）がおよそ物理学、解剖学および生理学が示す原理に従っていることを理解することを目的とする。	スポーツにおけるパフォーマンスを向上させるために、力学的にどのような要因を改善することが必要なのか、思考できることを目標とする。受講生の運動・スポーツの「動きをみる目」が変わり、スポーツ指導の現場で活かしていることを期待する。	◎	○			○	○	○				○
19UHSB2027	学校保健	2	本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。学校における保健教育・保健管理を充実させるとともに、併せて体育実技を通して子ども達に健康の保持増進並びに学校安全に関連する実践力を身につけさせるために必要な専門的知識および技能を修得することを目的とする。	学生は教員の立場で現代の子どもたちを取り巻く健康問題に目を向け、学校における保健活動、すなわち「保健教育」と「保健管理」の内容を理解しなければならない。また、「保健教育」では、効果的な保健学習や保健指導法についての知識や考え方を身につける。さらに、学校が家庭や地域社会とどのような連携を保ちながら子どもたちの安全を確保すべきかも理解しなければならない。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○			○	○	○				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性				
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2			
19UHSB3028	公衆衛生学	3	公衆衛生学は「人間集団を種々の疾病から守り、健康の維持・増進を図り、その精神的肉体的能力を十分に発揮できるような環境にすること」を目的とした学問である。公衆衛生に関する広範囲に亘る事項について解説し、集団の健康を維持するための基本的知識や考え方を修得することを目的とする。 また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保健衛生や環境問題について幅広く知識を身につけて、国民の健康維持・増進のために適切な判断力のもとに指導できる基本的な力を養うこと。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○				○	○	○			○		
19UHSB3029	発育発達・老化論	3	科目の目的は、乳幼児期から高齢期に至るからだの発育発達と老化の過程を理解し、体育・スポーツの指導者として個々の状態に相応しい運動プログラムが提供できる能力を身につけさせることである。	学生には、この授業を通じて子どもが誕生し、老いていくまでのからだの発育発達と老化についての理解を深めてもらいたい。そして発育期の運動・スポーツの関わりが、子どもたちの健康・体力にどのように影響するかについて、科学的な根拠をもって説明できる能力を身につける。	○	◎	○			○	○	○				○	
19UHSB2030	スポーツ指導論	2	近年日本では多くのスポーツ種目が若男女問わず盛んに行われるようになった。見るスポーツから実践し楽しむスポーツに形態が変化し、スポーツの役割は社会的にもまた、個人の健康の維持・増進に欠かせない。そのスポーツ指導について正しい知識と効果的な指導法を理解することを主な目的とする。	スポーツ指導者に求められる役割を理解する。 <知識・理解> スポーツ指導における世代間伝達 スポーツ指導者の役割 <技能> コミュニケーションスキル モチベーションコントロール <態度・指向性> Players First スポーツ指導者の倫理 自己研鑽 <総合的な学習経験と創造的思考力> 学習した一般的内容を、自分の専門とするスポーツ種目の指導実践に応用する能力	○	○				◎	○	○				○	
19UHSB4031	スポーツ社会学	4	本講義は次の目的のために開講する。 現代社会におけるスポーツの役割・機能、社会的価値、あるいはスポーツの問題点などの分析を通して、スポーツ・体育の指導者として求められる深い知識を得る。 知識をもとに、自分で問題を設定し、分析・解釈し、考え抜くという技術を得る。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	さまざまな時代や社会におけるスポーツの状況および歴史的変遷の過程、変化の理由などについての基本的な知識を習得する。その学習をとおして、社会の変化とスポーツの変化とを相関的に見る視点を養うと同時に、現代のスポーツに関わる諸問題について、歴史的な視点から考察することができるようにする。そして、現代のスポーツにおける課題や問題点、さらには今後のスポーツのあるべき姿についての自らの考えを持てるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探究すること。	○	○				○	◎	○					○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
19UHSB2032	スポーツ行政・法規	2	わが国のスポーツに関する行政組織については、スポーツ基本法によりスポーツ振興の基本的方針が示されており、この目的を実現するために種々様々なスポーツ政策が具体的に実施されている。そこで、スポーツ行政の概念および現状等について理解を深めるとともに、体育・スポーツの実施に際し起こりうるであろう、体育・スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理について理解を深めることをねらいとする。	科目修得時には、「日本のスポーツ行政組織」「スポーツ事故に関わる法的責任および安全管理」などについて、論理的説明が可能となることを目標とする。	○	◎			○	○	○	○	○	
19UHSB2033	スポーツ経営管理学	2	現代のスポーツにおける環境は、地域のスポーツをはじめとし非常に多様化された組織の集まりとなっている。将来、スポーツ指導者という立場でその多様化されたスポーツ現場に対応しうる能力の一つとして、経営学的なものの方をもてるようにすることがねらいである。 また、本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目修得時には、スポーツ経営について論理的説明が可能となるよう、スポーツ経営の基礎を身につけることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○			○	◎	○	○	○	
19UHSB2036	体力の測定評価演習	2	体力の構造や各体力要素の測定方法の基本について理解し、実際に測定ができる能力を涵養する。また、得られた測定結果を適切に評価し、それに基づいた運動処方やスポーツ指導ができる能力を身につける。	1. 形態測定の原理や方法を理解し、実際の測定ができる。 2. 有酸素性および無酸素性能力の指標と測定方法を理解し、実践できる。 3. 新体力テストと体力要素との関わりを理解し、実際に測定や評価ができる。 4. 基礎統計を理解してデータを評価し、それに基づいた運動指導を行うことができる。	○	○		○	○	◎	○		○	
19UHSB3037	スポーツ心理学実験	3	スポーツ場面で見られる様々な行動や動作は人の意思や意識、また、無意識の中の深層心理などが深く関わっており、影響を及ぼしている。本科目では、これらの身体活動と心の働きとの関係について、実験や各種心理テストから明らかにし、パフォーマンス向上に関する知識を習得することが目的である。	実験実習を中心にした生理心理学的立場からスポーツ分野における身体活動と心の働きの変化を科学的に解明し、理解する。これらから、メンタルマネジメント（リラクゼーショントレーニング・イメージトレーニングなど）について学習し、メンタルスキルの向上を図る手法を修得する。獲得した知識・技能・方法をコーチングに活用し、指導者として生徒のメンタルスキル向上に貢献できる資質を身につけることが目標である。	○	○		○	○	◎	○		○	
19UHSB3038	運動生理学実験	3	人の健康の維持・増進やスポーツのパフォーマンスの向上には、人の行動体力を把握することにより、適切な運動処方としてのトレーニングプログラムが作成できるものである。そこで本講ではその各種の行動体力測定方法について学習することを目的とする。	行動体力の測定・評価を学習することは、幅広い年齢層あるいは性差を含めて運動処方トレーニングプログラム作成に貴重なデータを提供するものである。従って各種測定方法の基礎的技術の獲得を目標とする。	○	○		○	○	◎	○		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2		
19UHSB3039	バイオメカニクス実験	3	スポーツにおける動きの巧みさを科学的にとらえ、運動の仕組みを理解する方法を学修していく。歩行運動をはじめとし各種スポーツ動作について、バイオメカニクス手法を用いた実験を実施し、そのデータを分析することで、それぞれのスポーツ技術の構造を把握しパフォーマンスを向上させるための要因を理解できるよう進めていきたい。	バイオメカニクス実験で使用するハイスピードカメラ、筋電図、床反力などの機器操作や映像分析や筋電図解析の専門PCソフト操作に習熟することを目標とする。	○	○				○	○	◎	○			○
19UHSB3040	専門英語 A	3	健康・スポーツ分野においてグローバルに活動するための語学（英語）力を身につけることを目的とする。	スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○					○
19UHSB3041	専門英語 B	3	健康・スポーツ分野においてグローバルに活動するための語学（英語）力を身につけることを目的とする。	スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○					○
19UHSB3042	専門英語 C	3	健康・スポーツ分野においてグローバルに活動するための語学（英語）力を身につけることを目的とする。	スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○					○
19UHSB3043	専門英語 D	3	健康・スポーツ分野においてグローバルに活動するための語学（英語）力を身につけることを目的とする。	スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。	○	○				◎	○					○
19UHSB3044	コーチング論	3	競技者を育成する高度な知識と効果的、計画的な指導法を学習する。また、継続的にスポーツを行う上で、勝利を目指すこと、今以上の技能の水準や記録に挑戦させることは当然ではあるが、大会で勝つことのみを重視し過重な練習を強いることがないようにすること、競技者としての健全な心と身体を培い、人間性を育むためのバランスのとれたマネジメントと指導ができるようにする。	適切な指導体系、コミュニケーション能力の獲得などにより、競技者の意欲や自主的、自発的な活動を促すとともに、心理面についての科学的知見、言葉の効果と影響を十分に理解し、現場におけるコーチとしてスポーツ場面での問題解決能力と指導法を身につけることを目標とする。		○	○			○	○	◎			○	
19UHSB3045	健康・スポーツカウンセリング	3	人間の家庭・学校、社会的側面から、多様な性格、行動パターンについて理解させ、豊かな人格をつくり上げていく過程を系統的に学習する。	心の健康について理解し自己コントロール能力を修得する。	◎	○				○	○					○
19UHSB3046	生活習慣病論	3	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の役割を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。さらに安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。	病気、健康、体力の概念から健康づくりにおける運動の意義を理解する。生活習慣病の予防や、高齢化社会における健康管理など健康と運動を結びつけその効果を理解する。また指導者として、安全に運動を行うためのメディカルチェックも学ぶ。健康について病気、健康、体力の各面から、健康を成立させる因子、阻害する因子を理解する。メタボリック症候群などの生活習慣病を具体的に学ぶ。さらに、健康の維持・増進に必要な方法について健康と運動の関係を中心に具体的に学ぶ。	◎	○				○	○	○				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
19UHBSB3047	運動処方	3	現代生活の利便性により身体活動量の低下が健康問題に大きな影響を与えるようになった。そこで年齢や性差を理解した上で、多くの対象者の健康の保持・増進、体力向上のための運動処方プログラムが立案できる知識を学習する。	スポーツマンの体力向上や健康の維持・増進のために実践するトレーニングや身体活動は、年齢、性差、運動経験、体力レベルの違いにより、その処方の内容を考慮しなければならない。そこで各種トレーニングや身体活動を理解し適切な運動処方がプログラムできる知識と能力を習得することを目標とする。	○	◎	○		○	○	○			○	
19UHBSB3048	フィットネス指導法	3	個々人の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動について理解し、自ら見本を示せる実技能力と個人および集団に対する運動指導能力を身につける。また、運動の継続を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	運動指導に必要なとなる解剖学的知識、健康づくりを目的とした運動指導に関する方法論、運動指導に必要とされるコミュニケーションスキル、および運動継続を支援する動機づけスキルの修得を目標とする。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
19UHBSB3049	介護法・介護予防演習	3	日本では現在少子高齢化が進み、介護の必要性はますます高まっている。介護の知識は将来役立つ知識であり、家族の為にもなる。介護予防の考え方、介護方法、障害を持っている人の機能回復を考慮した介護について理解を深める。介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実際について理解する。	介護の対象者は高齢者、脳血管障害、下肢の骨折とし、リハビリテーション、体力測定、評価、運動、介護の実際について理解する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
19UHBSB4050	運動療法演習	4	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学び、運動プログラムの作成と管理を学ぶ。運動負荷方法を学ぶ。	メディカルチェック、健康診断結果、生活習慣病患者を学びメタボ健診などができるようになる。運動プログラムの作成と管理を学び、運動負荷方法を学んで運動指導のための基礎知識を得る。心電図の記録法、血圧、脈拍の測定、方法、意義を理解し、運動指導の意義を理解する。メディカルチェックや健康診断結果の解釈。服薬患者の運動プログラム作成上の注意点を理解する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19UHBSB4051	健康行動科学・演習	4	健康を行動の側面から理解し、人の健康に関する行動の変容と維持について、筋道を通して考える知識を身につける。また、望ましい健康行動を支援するコミュニケーション能力の獲得を目指す。	健康行動の変容と維持に関する行動科学の理論・モデルを理解し、その理論・モデルを応用した健康行動変容プログラムの作成方法の修得を目標とする。	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
19UHBSB4052	健康・スポーツ実践実習	4	指導現場における健康・体力づくりやスポーツの指導は単に技術指導だけでなく、諸問題が伴うものである。学内では解決できない実践的な学習課題を社会に出て実習し、指導現場の実情を把握すること、問題解決の実践力を養うことを目的とする。	少子・超高齢社会を健康で活力あるものとしていくためには、単に病気の早期発見や治療にとどまるのではなく、健康を増進し、発病を予防する「一次予防」を重視すること、生活の質を高めることにより、実り豊かで満足できる生涯づくりを目指す人々を多くすることが重要である。適切な運動プログラムを構成する能力と自ら見本を示せる実演能力を併せ持った健康運動指導者をひとりでも多く輩出する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
19UHBSB3053	レクリエーション論	3	指導者を志すわれわれにとって必要なレクリエーションに関連する原理、心理、運動論、指導論、組織論、企画論、グループワーク論等の基礎理論を学習する。	コミュニケーション・ワークの援助を中心としたレクリエーション指導ができるよう、科目目的に記載したレクリエーションに関する理論の基礎を理解する。	○	◎			○	○	○			○	
19UHBSB3054	レクリエーション指導法演習	3	参加者が気持ちよく参加できるよう支援者としての対応の仕方や表現力を身につけるため、コミュニケーション・ワークの技法を学ぶ。	参加者の意欲を引き出し、「できる」「続けたい」「楽しい」という気持ちを引き起こす方法を学ぶ。また、活動の内容を理解し、楽しく技術提供（指導）ができるよう学習する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性	
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2
19UHSB4055	レクリエーション指導法実習	4	多様なレクリエーション活動・種目があることを理解し、他人に指導できるよう学習する。	活動のねらい・ルールを理解し、技術を身につける。それと同時に、活動・種目の内容を理解し、提供する（指導する）ことができるよう学習する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19UHSB3056	障がい者スポーツ論Ⅰ	3	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者のスポーツ振興に必要な基本的内容を理解し、身近な障がい者のスポーツ活動を支援できる能力を身につけることを目的とする。	障害についての基本的な知識を身につけることができる。障がい者のスポーツの捉え方、歴史、組織、競技・種目、ルール等を理解することができる。障がい者の生活、障がい者のスポーツ活動を通して、社会のあり方について考えることができる。障がい者に対してスポーツやレクリエーションの指導を行うための基本的な知識を身につけることができる。	○	◎			○	○	○		○	
19UHSB4057	障がい者スポーツ論Ⅱ	4	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では各種障害を理解すること、また、障がい者へのスポーツの指導法を理解することを目的とする。	各種障害についての知識を身につけることができる。	○	◎			○	○	○		○	
19UHSB4058	障がい者スポーツ指導法	4	障がい者にスポーツを指導する場合には、障害についての基礎知識を持ち、なおかつスポーツ指導についての知識と技能を身につける必要がある。この授業では障がい者が日頃親しんでいるスポーツ・レクリエーションを実践し、その指導の要点を理解することを目的とする。	車椅子バスケットボールなど、障がい者の親しんでいるスポーツのルールや指導の留意点を理解することができる。障がい者に対してスポーツやレクリエーションの指導を行うための基本的な知識を身につけることができる。スポーツ指導における「工夫すること」の重要性を考えることができる。	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
19UHSB1061	スポーツマネジメント論	1	健康・スポーツマネジメントでは、現代社会に生きる女性をキーワードに健康・スポーツ科学の学生が専門資格に関連する「女性の職業展開」と「ライフコース」について考え、応用・実践できる力を身につけさせることを目的とする。	公営・民間をはじめプロスポーツクラブおよびレジャー・レクリエーションの現状について理解を深め、さらに現地視察を通して健康・スポーツ関連企業のマネジメントの課題について考える力を育てる。	○	○			○	◎	○		○	
19UHSB1062	スポーツビジネス最前線	1	スポーツビジネスは日々進化している。既存のスポーツビジネスの内部、あるいは異なる業種との連携の中で新しいスポーツビジネスが生まれている。本科目は、さまざまな健康・スポーツ関連企業からゲストを招き、オムニバス形式で講義をしていただき、各企業の最新情報やロールモデルについて学ぶことを目的とする。	スポーツビジネスの最前線で活躍する実践者の講義に触れ、ディスカッションをする中で、スポーツをビジネスにするとはどういうことなのか、または社会を変革・進化させるビジネスという人間の営みについて、自分なりに思いをはせ、イメージし、理解できるようになること、および本学科での今後の学びの方向性や、キャリア形成について展望を描けるようになることが目標である。	○				○	○	○	○	◎	○
19UHSB1063	スイミング	1	スイミングでは、基礎の泳法を修得することで、記録の向上や競争の楽しさを味わい効率的な泳ぎを身につけられるようにする。さらに授業実践を通じて安全管理についても学習することを目的とする。本科目は、中高教科保健体育におけるスイミング分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	スイミングでは、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4泳法の基礎技術と各泳法のスタート、ターンを修得し、100m個人メドレーを完泳することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
19UHSB1064	トラックアンドフィールド	1	受講生が、記録測定の正しい方法と実技中の安全対策を学修するとともに、技能向上に積極的に取り組み、記録挑戦や競争への楽しさや喜びを体感することを期待する。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	本授業の到達目標は以下の3点とする。 (1) 受講生自身が教育現場で見本をみせられるよう、各種目の基本および効率の良い動きを身につけることができるようにする。 (2) 陸上競技のルールやマナーを理解し記録測定を正確に実施できるようにする。 (3) 陸上競技各種目の技術の名称や特有の動きのポイント、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、安全性に配慮できるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19UHSB1065	体 操	1	体操は徒手体操をはじめ体づくりや動きづくりの基本を通して自己の健康・体力を維持増進しようとする運動である。また、学習指導要領の体ほぐしの運動と体の動きを高める運動では、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めることなど、種々のスポーツにおいて欠かすことができない動きの習得を目指し、授業では身体的基本的操作と創作能力や実践能力を養う。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指導者として師範できるストレッチ、ラジオ体操第一および第二、異操作等を習得する。また、体づくり運動で実施される種々の動きを実践し習得する。獲得した知識・技能・態度を、指導者として生徒の健康・維持増進に貢献できる資質に身につけることが目標である。 教職課程履修学生は、学修内容を該当の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19UHSB2066	器 械 運 動	2	1. 学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解させる。 2. 学習指導要領で取り上げられている技を習得させる。 3. 運動観察力を高め、生徒の運動を評価できる能力を身につけさせる。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。また、学習指導要領に示されている「技」を取り上げ、その演技ができるようになる。また、段階指導法を学ぶことで、器械運動の練習方法の原則についても理解し、基本的な器械運動の「技」の指導が行えるようになる。授業内で成功体験をし、達成感を味わうことでスポーツの楽しさや価値を体感する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19UHSB2067	バ レ ー ボ ール	2	6人制バレーボール、9人制バレーボール、ソフトバレーボール、ビーチバレーボールとして多くの国民に親しまれているバレーボール。将来指導者としての基本技能習得とゲームづくりについて学ぶ。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	まず、個人的な基本的技能については、自ら、指導者として見本が見せることのできる能力を最低限として習得する。また、ゲームを構成させるための組み立てや応用技術の習得、審判を含め競技会の運営能力を習得する。さらに、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
19UHBSB1068	バスケットボール	1	本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 バスケットボールは、現在我が国で最も盛んなスポーツの一つであり、中学校および高等学校の保健体育科の中にゴール型球技として含まれる代表的なスポーツ種目である。この科目は、バスケットボールの基本的な技術・戦術の習得はもちろん、初心者に対する指導法、ゲームの審判法および運営法などを習得することを主な目的としている。	教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 <知識・理解> バスケットボールの基礎知識 ルールと審判法の理解 初心者指導における留意点の理解 ゴール型球技における攻撃の原則の理解 <技能> バスケットボールの基本技術・基本戦術 審判法とゲームの運営法 初心者への指導法 <態度・志向性> チームワーク 積極的な「コツ」の受け渡し <総合的な学習経験と創造的思考力> グループの技術的課題や戦術的課題を、熟練者がリーダーとなりチームで解決する能力	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
19UHBSB2069	ハンドボール	2	ハンドボールにおける指導法や審判法を習得することを目的とする。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるハンドボール分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	「技術・戦術理論」 ボールを使ったコーディネーションスキル 様々なパス・シュートの技術（主にジャンプシュート） 1対1の攻防スキル 攻撃におけるグループ戦術およびチーム戦術 防御におけるグループ戦術およびチーム戦術 「指導理論」 ボールゲームにおけるウォーミングアップの方法論 ゲームを中心とした、減算式指導法の考え方 ハンドボールの技術指導の考え方、コツ 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
19UHBSB3070	柔道	3	本科目は、中高教科保健体育における柔道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	科目修得時には、受身、投技（手技・腰技・足技）、固め技（抑え方・逃げ方）が身につくことを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
19UHBSB2071	剣道	2	本科目は、中高教科保健体育における剣道分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	日本独自の伝統文化である剣道を正しくとらえ、相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んじ、基本動作を習得させ、对人的技能の向上を図ると共に、互いが信頼できる人間関係を築かせるとともに、剣道を通して明朗で心豊かな人間の育成を目標とする。 また、教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
19UHSB1072	ダンス I	1	学習過程では個性の育成や仲間との活動を通して仲間とのコミュニケーション能力を高め、伝承されてきた踊りやリズムにのって全身で踊る楽しさを通して自己表現法の技能の獲得を目指す。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	各自が「現代のリズムのダンス」を自分の言葉で説明できるようにする。「踊る喜び」を自分のからだで他に伝えることができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
19UHSB1073	ダンス II	1	ダンスは身体的、情緒的、知的に自己表現ができる身体によるボディランゲージである。そのため個の創造的な能力や仲間とのパーソナリティ開発を深めその教育的価値についても理解する。 また、本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	テーマ（課題）からイメージする動きを身体で表現する能力（スキルや表現力）等を個人レベルで獲得することを目指す。グループワークでは、作品を作り上げていく活動の中で、自己能力の思考開示や他者への理解を深め、互いの能力を認め合い、問題解決まで協調・協力し努力していく態度を養う。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
19UHSB2074	ダンス III	2	コンテンポラリーダンスは多様な音楽を使い、独創性の高いジャンルである。個人技能の獲得と身体コミュニケーション能力を高める。本科目は、中高教科保健体育におけるダンス分野を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	ダンス技術の向上と作品創作の為の基礎的知識を学び取る。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
19UHSB4075	卓球	4	生涯スポーツのひとつとして国民に広く親しまれている卓球の特性と魅力にふれ、生涯にわたって、地域や職域等において家族や友人などとともに卓球を楽しむことのできる基礎的な技能や初歩的なゲームのできる能力の習得をねらいとする。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	卓球の基礎的技術を習得し、楽しく試合ができることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
19UHSB4076	バドミントン	4	基本的な練習を通して、個人の技能を高め、仲間と協力して授業を形づくっていくことで、自ら主体的に行動し、そして協調性豊かな学生と成長していくことを期待したい。 本科目は、中高教科保健体育を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	バドミントンの基礎的技術を習得すると共に、楽しくゲームができることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
19UHBSB3089	アクアエクササイズ	3	健康・体力づくりを目的としたアクアエクササイズについて、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成能力と実践力、および指導力を養う。	アクアエクササイズにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を獲得する。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより習得する。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
19UHBSB1090	海外の健康・スポーツの研究	1	国際化が進むなかで海外での生活体験を通じ国際理解を深めると共に健康・スポーツ指導者としての自覚を高め真の国際人の育成を目的とする。	海外の文化に触れ生活様式を経験することで国際的知識を身につけ、外国語の語学力を高めることに努める。	○	○			○	○					◎
19UHBSB1091	マリンスポーツ実習	1	アウトドアスポーツのひとつとして、マリンスポーツ実習は自然とのかかわりの中で自然に対する知識や実習の計画方法、事故防止策について学び、指導者として必要な身体活動・安全管理の基礎的な知識や技術を学習する。	自然の中で行われる実習の計画方法や健康管理を理解し、安全に実習することができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
19UHBSB2092	キャンプ実習	2	キャンプの幅広い教育効果を理解するよう体験学習し、指導的立場からの企画立案を実習する。本実習の目的は、大自然の中での共同生活を通して、野外での諸活動を修得することである。	(1) 自然の中で集団的、自律的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同の生活を体験する。 (2) キャンプ生活の技術を学びつつ、諸活動(アクティビティ)を通して自分の体力や精神力を鍛える。 (3) 将来、キャンプを指導する立場に置かれたとき、企画立案することができ、運営指導ができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
19UHBSB2093	スノースポーツ実習	2	1. スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法を修得し、生涯スポーツとしてのスポーツの在り方を学習する。 2. 自然に対する知識や事故の防止策等について学びながら、指導者として必要な企画立案・運営指導の能力を身につける。 3. 団体生活・団体行動を通じて、その態度を養う。	(1) スポーツ指導者として必要なスキーの運動特性、技術、指導法の修得 (2) 生涯スポーツとしてのスキーに関する知識の修得 (3) 自然に対する知識やスキー・スノーボード事故の防止策の修得 (4) スキー実習の実施に必要な企画立案・運営指導能力の修得 (5) 団体生活・団体行動を通じて、規律ある態度および行動規範の修得	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○
19UHBSB3094	健康・スポーツ科学の統計学演習	3	健康・スポーツ科学に関する卒業論文の作成のために、実験や調査で得られるデータを正しく分析・解釈できる実践的な能力を身につける。また、データが語りかけているものを感じとる能力の洗練を目指す。	統計学的基礎知識および健康・スポーツ分野における統計学の活用方法の理解、エクセル統計の基本操作およびアンケート調査のデータ処理方法の習得を目標とする。	○	○			○	◎				○	
19UHBSB2095	2年次演習	2	健康・スポーツ科学に関わる諸科学の研究領域と研究方法について、それぞれの研究方法としての特徴を学び研究すべき方向付けをすることを目的とする。	健康・スポーツ科学に関わる諸研究の着眼点や研究アプローチを学び、3年次より選択すべきゼミにつなげられるようにすることを目標とする。	○	○			○	○	○				◎
19UHBSB3096	健康・スポーツ科学演習	3	健康・スポーツ科学に関わる諸科学の研究領域と研究方法について、体系的な認識を持ち、そのことを通した問題を設定し、その解決のための方法論を身につけることを目的とする。	自分の所属するゼミにおいて、健康・スポーツ科学に関わる問題発見、問題提起、問題解決の方法を学び、4年次に行われる卒業研究への導入を目標とする。また、4年次においては、研究論文、実践研究、教材研究発表という形式で、その研究成果を発表するため、具体的なテーマ、研究方法等について絞り込むことを目標とする。	○	○			○	○	○				◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性					
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2				
19UHSB4097	卒業研究	4	3年次に学んだ健康・スポーツ科学の専門領域にふさわしい手法を使って、卒業論文、実践研究、教材研究から、それぞれの完成形である論文発表、研究発表に導く能力を身につけることを目的とする。	自分が専門とする研究分野におけるテーマを設定し、そのテーマに基づく研究を進め、成果物の提出を行い、発表会にて研究発表することを目標とする。	○	○				○	○	○			◎			
19UHSB1401	教職入門	1	1. 中高教諭または栄養教諭として必要な資質能力や基礎的知識について講じる。 2. 特に教職の意義および役割、職務内容についての理解を深める。 3. 教育への理解と教職への関心を高め、進路選択における主体的な夢を喚起し、以後の学年次の教職課程履修への自覚と意欲を高揚させる。	①教職全体について総合的に理解し、4年間の大学生活および教職課程履修について、学ぶ意欲と計画性を高める。 ②教職の意義や教員の果たす役割を理解し、教職を志す意識を明確にもつ。 ③明確な教員像をもつことができるよう、教員の職務内容は校務分掌に基づき分担され、学校が組織として機能していることを理解する。	◎	○	○		○	○	○					○		
19UHSB1402	教育原理	1	教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育および学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。また、教育実践に関わる基礎理論と実際の取り組みを学び、現代教育の抱えている課題を理解する。	①教育という営みの基本的概念、および教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解している。 ②教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を理解している。 ③教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育および学校との関わりを理解している。		○	○	○		○	◎	○				○		
19UHSB1403	人権教育の理論と方法	1	1. 国際化、情報化、科学技術の進展など、急激な変化を見せている現代社会において、未来世代の子どもたちとともに新しい人権文化を育むことが教員に課せられていることを認識する。 2. 現代に適合した人権教育のあり方を探求し、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間形成について考察を深める。	①人権に関する諸問題が生じる要因について科学的に認識するとともに、その解決に向けての教育実践を構想できる教職の専門性を身につける。 ②また学習過程を通じて、自ら課題を見出し、人権教育の教育課程を自主編成できる能力を身につける。	○	○	○		○	○	◎						○	
19UHSB2404	教育史	2	1. 西洋・日本の教育史を概観することにより、教育を歴史的側面から考察する力を育成する。 2. 教育思想の現代的意義を探究する力を育成する。 3. 現代日本の教育課題について、歴史的に考察する力を養う。	①古代から現代に至る西洋・日本の教育思想・制度の特徴を理解し、歴史的背景や現代的意義を考察できる。 ②教育の歴史を学ぶことにより、現代日本の様々な教育問題を理解できる。 ③教育思想を学ぶことによって、中高教員としての教育観を形成する。	◎	○	○		○	○	○						○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号										
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目										
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性		
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	
19UHSB1405	教育心理学	1	1. 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を身につける。 2. 心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達および発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得し、主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。	①乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達および発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得している。 ②主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解している。 ③教育における心理学の意義を理解し、具体的な問題解決を志向する態度を身につけている。	◎	○	○		○	○	○				○
19UHSB2406	発達心理学	2	1. 人間の発達を単なる成長と捉えることなく、乳幼児期から青年期の各時期に起こる様々な事象を通して発達し続けていることを学ぶ。 2. 特に人間の心理的発達について、心理学的視点から考察を深める。	①乳幼児から成人までの発達過程を理解する。 ②中学生および高校生の発達課題を理解し、教育実践に生かすことができる。	◎	○	○		○	○	○				○
19UHSB3407	教育行政学	3	1. 中高教諭または栄養教諭に必要な、わが国現行の公教育制度とその行政・政策システムに係る教育法規について教育行政学の視点から講義し、理解を深める。 2. 現代の公教育制度を運営・管理・改革する教育行政およびその実践主体としての学校の経営と学級経営について、基礎的な知識・技能を学ぶ。	学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力の前提を構成する公教育への理解力を高める。 ①教育的行為が日常的に展開されている基本的な教育空間と教育機能等について基礎的理解を得る。 ②公教育制度としての学校教育システムについて、法制度の視点から基礎的な知識を得る。	◎	○	○		○	○	○				○
19UHSB2408	教育社会学	2	教育社会学の観点から、「近代教育」や「学校」の歴史的な位置づけを確認した上で、今日における問題や課題を捉え、教員の役割や職務内容の理解を深め、中高教員として必要な資質・能力を修得する。	①わが国および諸外国における近年の教育事情および教育政策の動向を理解している。 ②子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解し、教育現象を歴史的側面や社会的側面を結び付けて捉えられる。 ③現在の学校および教育に関する社会的期待や批判等について客観的に考えられる。 ④教師や学校に対する社会的期待を理解し、それに答える方法について考えられる。	◎	○	○		○	○	○				○
19UHSB2409	教育課程総論	2	1. 新教育基本法によるわが国教育の基本的な目的と方向性を理解し、特に「新学習指導要領」の理念や教育課程についてその基本となる事項や実践上の課題等、具体的な理解を図る。 2. 現場での教育課程の編成、方法や技術など教育活動をより効果的に実践していくための運営とその能力を育成する。	①学習指導要領を理解し、教育課程編成の基準となる事項および教育活動の内容を理解する。 ②教育課程論、教育内容・方法論等に関する具体的実践事例を通して、学校教育のあり方、カリキュラムのあり方を常に創造的に問い直すことのできる能力と姿勢を身につける。	○	◎	○		○	○	○				○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2		
19UHSB4415	教育実習Ⅰ（中高）	4	これまでの教職課程での学び全体を通して得た知識・技能と専門教育課程科目で得た知識・技能とを統合して、教育実習で積極的に活用する方法と態度を学ぶ。中高教諭としての使命感や責任感、社会的対人関係力、生徒理解と学級経営力、教科指導力および授業力を総合的に高める。	学生は、教育実習全体を通して下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する中高教諭としての使命感や責任感、社会的対人関係力、生徒理解と学級経営力、教科指導力および授業力を総合的に高める。 ①教師としての志＝目的意識および倫理観（感）を明確にもつ。 ②教師・社会人としての対人関係能力を高める。 ③学級経営・生徒指導を実践する際の理念・構想・実践プランを具体的に描くことができる。 ④専門教科指導に要する基礎的な知識・技能を有し、個別の授業を構想し指導案を作成して、授業を展開できる。 ⑤専門教科以外の教育活動領域について、基礎的な知識・技能を有している。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
19UHSB4416	教育実習Ⅱ（中高）	4	これまでの教職課程での学び全体を通して得た知識・技能と専門教育課程科目で得た知識・技能とを統合して、教育実習で積極的に活用する方法と態度を学ぶ。中高教諭としての使命感や責任感、社会的対人関係力、生徒理解と学級経営力、教科指導力および授業力を総合的に高める。	学生は、教育実習全体を通して下記目標に到達することにより、教職実践力を構成する中高教諭としての使命感や責任感、社会的対人関係力、生徒理解と学級経営力、教科指導力および授業力を総合的に高める。 ①教師としての志＝目的意識および倫理観（感）を明確にもつ。 ②教師・社会人としての対人関係能力を高める。 ③学級経営・生徒指導を実践する際の理念・構想・実践プランを具体的に描くことができる。 ④専門教科指導に要する基礎的な知識・技能を有し、個別の授業を構想し指導案を作成して、授業を展開できる。 ⑤専門教科以外の教育活動領域について、基礎的な知識・技能を有している。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
19UHSB1417	特別支援学校参加実習	1	1. 中高教職課程履修者を対象に、多様な特別支援教育の実際に触れ、教職について体験的に学ぶ機会とする。 2. 特別支援学校で、障害のある幼児・児童・生徒が、担当教員の指導・助言・援助を得て自立への意欲・態度を育てている姿から多くのことを学ぶ。	①特別支援学校の教育活動を体験する。 ②特別支援教育の実践や特別な配慮を要する子どもへの関わり方などについて理解を深める。	○	○	○		○	○	◎	○	○	○	○	
19UHSB4418	教職実践演習（中高）	4	1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。 2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。 3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。	①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。 ②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。 ③生徒を臨的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。 ④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。 ⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。	○	○	○		○	○	○		○	○	○	◎
19UHSB3419	特別支援教育論	3	1. 特別支援学校教諭だけでなく、通常学級担任も各種障害について知識や技能が求められることの現状と背景について講じる。 2. 各種の障害を有する幼児・児童・生徒への効果的な教育や支援のあり方や関係機関との連携を密にした教育実践を行うため知識や技能を理解する。	①各種の障害および障害児について基本事項を理解する。 ②障害児を指導するための実態把握や指導方法を知る。 ③各種の障害に基づいた教育のあり方を理解する。 ④障害児を育てる保護者の心情を理解する。 ⑤障害児者が置かれている社会的状況を知る。 ⑥事例をもとに指導方法を考えることができる。	○	◎	○		○	○	○					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2					
19UHSB3420	総合的な学習の時間と特別活動	3	中高学習指導要領に示された総合的な学習の時間および特別活動の特徴をとらえるとともに、具体的な演習等を通して、中等教育における総合学習や特別活動の指導のあり方について理解を深める。	①学習指導要領における総合的な学習の時間・特別活動の目標および内容を理解している。 ②教育課程上の位置づけや他教科等との関連を理解している。 ③活動の特質を理解し、適した指導法のあり方について理解している。	○	○	◎		○	○									
19UHSB3421	教育実習事前指導（中高）	3	1. 中学校または高校教育の意義や実際の教育活動について、実習校の実態を踏まえて総合的に学修する。 2. 教育実習の意義を理解する事前指導として、教職課程におけるこれまでの学びを踏まえ、中学校または高校教諭としての必要な知識・技能・態度等を具体的に修得する。	①教育実習の意義を理解する。 ②教育実習に関する基本的な知識・技能・態度について学修する。 ③学習指導案作成の仕方を修得する。 ④学習指導案に基づき模擬授業を実施できる。 ⑤教育実習に臨む意欲を高める。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎			
19UHSB2021	スポーツ傷害の基礎知識Ⅱ	2	健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医学的分野の基礎知識を身につける。	運動中に起こりやすい、運動器（骨、軟骨、筋肉、神経、靭帯、腱など）の傷害を理解するためにその基礎となる組織、遺伝などを理解し、子どもから大人まで運動指導が可能になること、医師を含めてパラメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話ができることを目標とする。	◎	○			○	○	○					○			
19UHSB2034	コンディショニング指導論	2	スポーツにおけるコンディショニングの必要性や重要性を理解し、スポーツ現場において (1) 競技力向上 (2) スポーツ外傷・障害予防 (3) 健康増進を目的としてコンディショニングを行っていることを認識する。スポーツ現場において、科学的観点から実践あるいは指導できるように知識を習得することを目的とする。	コンディショニングの目的、要素を理解し、競技者が最高のパフォーマンスを発揮するためのトレーニング計画の立案とコンディショニングに関するアドバイスができるようになる。スポーツ外傷・障害予防のためのコンディショニングの必要性を説明できるようになる。健康増進のためのコンディショニングの必要性を説明できるようになる。	○	◎	○			○	○					○			
19UHSB2035	コンディショニング指導演習Ⅰ	2	コンディショニングの概念と目的を理解し、また、その要素と評価法を習得することで、多様なスポーツ現場でその時々求められる目的にあったコンディショニングの実際に触れ、スポーツ現場に対応できる能力を身につける。	コンディショニングの目的を理解できるようになる。 コンディショニングの要素を理解し、スポーツ現場にその知識を還元できるようになる。 コンディショニング評価の必要性を理解し、また、その評価方法を学び、評価を実践できるようになる。 コンディショニングに必要な各種技術（テーピング、ストレッチ等）を学び、実践できるようになる。	○	○		○	○	◎	○					○			
19UHSB3059	コンディショニング指導演習Ⅱ	3	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法と実際に学び、競技種目特性およびコンディショニングに応じたプログラム作成と指導能力を習得する。	コンディショニング指導計画を立てることができるようになる。 コンディショニングトレーニングを正しく行うことができるようになる。 コンディショニングトレーニングを安全に配慮して正しく指導ができるようになる。	○	◎	○	○	○	◎	○	○				○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2		
19UHSB3205	健康管理とスポーツ医学	3	健康管理の習得を目的とする。アスリートにみられる急性および慢性的疾患について学び内科的メディカルチェックに関する知識を身につける。加齢、性差に伴う生理学的変化、特殊環境化でのスポーツ医学やドーピングコントロールについて学ぶ。	最新のスポーツ医学関連や生活習慣病の情報を得て、スポーツやトレーニングの重要性を習得する。最新のスポーツ選手の健康管理（メディカルチェックを含む）、トレーニングによる生理的適応現象、トレーニングによる病的現象、スポーツによる内科的障害とその対策を理解する。	○	◎	○		○	○	○			○		
19UHSB2206	A T 実践実習	2	これまでに学んできたアスレティックトレーナーに必要な知識・技術というものが、実際のスポーツ現場でどのように生かされているのか、あるいは競技種目の違いを実習により学ぶ。また、スポーツ現場で求められる実践力、応用力、対応力、コミュニケーション能力についても実習をとおして学ぶ。	スポーツ外傷・障害の評価を行い、的確な説明ができる。スポーツ現場における応急処置を適切に行える。コンディション評価を行い、適切な説明および指導が行える。検査・測定評価に沿ったトレーニングプログラムを立案できる。トレーニングプログラムに従って安全管理に配慮されたトレーニング指導ができる。教育的指導が行える。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
19UHSB4207	スポーツトレーニングの科学Ⅱ	4	スポーツトレーニングの実践上の諸問題を科学的に探求する。スポーツトレーニングの科学Ⅰの学習内容を踏まえ、長期的トレーニング計画から日々のトレーニングセッションに至るまでの理論的基礎を学ぶと共に、トレーニング課題に対する実践的な解決の方法や新たなトレーニング方法の創意工夫、応用的なトレーニング計画の原理と方法を修得する。	トレーニング指導をする立場で実践的に役立てることのできるまでの理解を深め、現場で起こる事象に対応したより良いトレーニング方法の立案ができる知識・知恵を修得することを目指す。	○	◎	○		○	◎	○			○		
19UHSB3208	検査・測定評価実習Ⅱ	3	アスレティックトレーナーがトレーニングあるいはコンディショニングプログラムを作成する際、機能評価を行うことは必須のことである。プログラム作成に必要な検査・測定について、その目的と意義を理解し、実際に測定したデータの評価が行えるようになることを目的とする。	機能評価を行い、得られた情報を分析できるようになる。検査・測定の意義を理解し、安全に配慮した検査・測定を実施できるようになる。測定で得られたデータの評価を行い、フィードバックすることが可能となる。スポーツ動作を解析し、パフォーマンス向上に役立てることができる。	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
19UHSB2209	アスレティックトレーニングⅠ	2	数多く存在する様々なトレーニングの中から、目的に応じた適切なトレーニングを選択し実施することが、スポーツにおける競技力向上や健康の維持・増進のカギを握っている。スポーツ現場で行われている各種のトレーニングについて、理論と実際を学ぶとともに、安全管理の意識を高めることを目的とする。	様々な基本的トレーニングを安全に配慮しながら、正しく実践することができ、正しい方法を指導することができるようになる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
19UHSB3210	アスレティックトレーニングⅡ	3	例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方や実際を学び、対象者へ正しい指導ができる知識と技術の習得を目的とする。	代表的なスポーツ外傷・障害に対してリハビリテーショントレーニングを実施する上で必要な検査・測定を行うことができるようになる。適切なリハビリテーションプログラムの立案と安全に配慮したトレーニング指導ができるようになる。	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
19UHSB3211	アスレティックトレーニングⅢ	3	競技種目特性に対応したアスレティックリハビリテーションの考え方や実際を学び、対象者へ正しい指導ができる知識と技術の習得を目的とする。	代表的なスポーツ外傷・障害に対して、競技復帰に向けたアスレティックトレーニングのプログラム立案と指導が行えるようになる。	○		○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2		
19UHBS4212	スポーツの心理と栄養	4	アスリートや指導者として役立つスポーツ心理学研究の動向を探るとともに、スポーツ心理学で取り扱うテーマや問題について理解を深める。また、アスリートは、体力の維持および競技能力の向上、スポーツ傷害予防という目的のために、トレーニングに加えて栄養面の充実も図らなければならない。そのために、必要な科学的根拠に基づいたスポーツと栄養の関係性についての知識を習得する。	スポーツの心理に関しては、メンタルトレーニング、心身のコンディショニングやマネジメント、スポーツパフォーマンスに関わる心理的問題、練習計画についての科学的知見から理解を図り、アスリートや指導者の立場からスポーツ現場での問題解決能力を身につけることを目標とする。スポーツの栄養に関しては、選手の競技能力向上、コンディショニング、スポーツ傷害予防のための適切なエネルギーおよび栄養素摂取について基本的な事項を中心に学ぶ。さらに、選手ごとに異なる食事計画について、総合的に考える力を身につける。	○	◎				○	○	○		○		
19UHBS2301	簿記	2	ビジネスや組織のマネジメントには会計が共通言語となっており、会計処理の文法である「簿記」は、スポーツビジネスやマネジメントにたずさわる者にとっても必須の知識・技能といえる。本科目では、簿記の原理を基本から学び、会計システムのあらましを習得することを目的とする。	会計処理の文法である簿記の仕組みを学び、決算書の作成手順や会計システムのあらましを理解する。そのうえで、簿記・会計がビジネスやマネジメントの現場でどのように活用できるか理解できるようにするのが望ましいが、さしあたり日商簿記検定3級に合格できる力を身につける。	○	○		◎	○	○	○			○		
19UHBS2302	スポーツマーケティング論	2	マーケティングとは、個人と組織の目的を満たすような交換を生み出すために、アイデアや財やサービスの考案から、価格設定、プロモーション、そして流通に至るまでを計画し、実行するプロセスである。現代におけるスポーツ産業の様々な成功事例からその裏側にあるマーケティング戦略を考察していく。	マーケティング戦略とは何かを理解し、スポーツ産業における企業のマーケティング行動が理解できるようになることを目指す。そして、マーケティングの基本用語や戦略法を理解し、自身の問題意識を交えて、商品、サービスを企画開発や宣伝、流通、そして価格など全て、顧客の立場で商品、サービスを評価できる人材の育成を目指す。	○	◎			○	○	○		○	○		
19UHBS3303	消費者行動論	3	現代における消費者の多様性を理解し、その消費行動を分析していく。そこには、経営学の戦略的アプローチだけではなく、心理学的なアプローチから様々なケーススタディを学んでいく。広告や販売に心理学を実務的に応用して、大きな成果をあげることを実学的に学ぶ。	消費行動モデル、消費行動の分析に関する理論や心理的アプローチに対して、自分の言葉を通して説明できるようになる。また実社会でも、学んだテクニックを使用し、消費者心理を多面的に分析できるようになる。消費者認知、消費者態度、消費者心理における戦略的思考や、分析的考察ができるようになることを目指す。	○	◎			○	○	○		○	○		
19UHBS2304	スポーツイベントの企画運営	2	イベントとは、非日常性を演出し、多数の人間を集め、時間と空間を共有することで、人々に新しい経験と感動をもたらす「場」である。本科目は、プロジェクトマネジメントという経営学的な手法を用いて、スポーツイベントの企画運営の多様な側面（計画、予算管理、実施、環境配慮、ファイナンス等）を学び、スポーツイベントの企画運営のための基本的知識を習得することが目的である。	過去のメガスポートイベントを題材にして、イベントをマネジメントすることの重要性・必要性を学び、プロジェクトマネジメントの手法を用いて、スポーツイベントの企画運営の流れを理解し、スポーツイベントを企画運営するための基礎的な知識・手法を身につける。また、「持続可能性に配慮したイベントを運営する組織の仕組み」を定めた国際規格である「ISO20121」についても理解を深め、持続可能性に配慮した現代型のイベントマネジメントについて知識を習得し、「スポーツイベント検定」等の関連する各種検定試験に合格する力を身につける。	○	○		○	○	○	◎	○	○	○		
19UHBS3305	販売管理論	3	販売士検定の取得を根幹に置いた講義である。商業、流通、マーケティングなど、取得に必要な知識とテクニックを学び、販売士3級の取得を目指す。	全講義終了後、検定を受けに行き、目標の級数を取得する。学生時代に販売士を取得し、就職活動への準備とアドバンテージとする。	◎	○			○	○	○		○	○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現		3. 思考・判断			4. 態度・志向性				
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2			
19UHBSB2306	実務技能対策論	2	実務において必要なスキルを学び、ビジネス系検定の取得を目指した講義である。数あるビジネス系の検定の中でも、ホスピタリティやサービスマインドなどに関するサービス接遇検定の3級取得を目指す。	全講義終了後、検定を受けに行き、目標の級数を取得する。学生時代にサービス検定3級を取得し、就職活動への準備とアドバンテージとする。	◎	○				○	○	○		○	○		
19UHBSB3307	ファシリティマネジメント	3	ファシリティマネジメントとは、企業や団体等のあらゆる組織が、経営資源としての「ファシリティ」（施設とその環境）を、総合的にマネジメントすることである。人々が活動、関与する「場」のマネジメントともいえ、マネジメントの新しい領域である。本科目では、ファシリティマネジメントの必要性や基本的な考え方を学んだ上で、スポーツファシリティのマネジメントに注目し、その管理手法（目標管理）に関する知識を習得することが目的である。	新しいマネジメント領域であるファシリティマネジメントがなぜ問題になるのか、その必要性・重要性について学び、ファシリティマネジメントの基本的な知識を身につける。その上で、特にスポーツファシリティのマネジメントについて、「目標管理」の手法についての知識を身につける。ファシリティマネジメントにおける目標とは、「財務目標」（お金の側面）、「品質目標」（ヒトの側面）、「供給目標」（モノの側面）であり、それら総合的な側面からファシリティのマネジメントを考える力をつけるのは目標である。また、「体育施設管理士」資格取得に結びつく知識を身につける。	○	○		○	○	◎	○	○	○	○			
19UHBSB2308	スポーツビジネス学内演習	2	健康・スポーツビジネス演習では、「女性の起業」に必要な知識、特許取得のプロセスなどを学び、さらに接遇など実社会に必要な知識と実践力を身につけることを目的とする。	起業および特許取得のプロセスを理解する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎		
19UHBSB3309	スポーツビジネス学外実習	3	「女性の起業」に必要な知識、特許取得のプロセスなどを学外の企業への直接インターンシップを通して、学びや訓練を受け、さらに接遇など実社会に必要な知識と実践力を身につけることを目的とする。	インターンシップを通して、実社会の成り立ちや、ビジネス現場の最前線を理解する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎		
19UHBSB3098	健康科学Ⅱ	3	健康で健全な生活を支えるには健康に関係する様々な分野の連携が必要である。この理解を深めるために3学科がそれぞれの専門分野の特性を提供し、3学科の学生が共同で健康科学に取り組み、知識を深めることを目的とする。	3学科の学生が共同で一つの課題を演習方式で研究を深め、健康への取り組みの多様性と他分野との連携の重要性に気付くことを目標にする。	○	◎				○				○			
19UHBSB1501	理系女性のキャリアパス設計論	1	本講義では、男女共同参画社会の実現、社会における理系女性の位置づけ、およびキャリア形成における支援制度や政策をテーマとした実習重視型の講義を行う。そして、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるように支援することを目的とする。	1. 日本の男女共同参画の現状について、世界各国との比較から説明できる。 2. ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事を両立しながら活躍している女性の講演から、多様な働き方があることを認識し、キャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 3. グループディスカッションや個人発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。 4. 将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。							○	○		◎	○		
19UHBSB1502	生命科学と倫理を巡る知性と感性	1	現代社会を支える科学技術の基盤となっている科学技術的思考法を学習する。哲学の考え方や倫理問題、研究開発などの講義を通して、探究心を向上させ、広い視野で実践的な思考態度を身につけることを目的とする。	①科学技術分野の基礎となる生命科学や情報科学の基本的枠組みを理解する。 ②哲学や倫理問題など一義的に正解のない問題に対し、自分の考えをまとめることができる。 ③発表討論会およびディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、本講義で学んだ内容について深い洞察力や考察力を身につける。										○		◎	○

